

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	<ul style="list-style-type: none"><li>・促音や拗音については、読むことはできるが、正しく書くことは難しい児童が多い。</li><li>・ひらがな50音の定着には個人差がある。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・生活科や算数科などの書く機会も活用し、教科横断的に指導をする。観察カードや文を作る時にできていなければ個別に指導する。</li><li>・50音の言葉集めや簡単な文を書く学習を積み重ね、語彙を増やすとともに、書くことに慣れるようにする。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・PU講師と連携を取りながら、個別に支援をすすめる。</li><li>・児童の実態に合った本を読み聞かせしたり進めたりして、活字処理量スピードを高めていく。</li><li>・書くことについて、様子や気持ちを伝えるための言葉や話型を掲示して、質を高めるための指導を行う。</li></ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"><li>・自分の考えを書くことは比較的できるが、段落分けや句読点の使い方、「」の使い方など、書き方に課題のある児童が多く見られる。</li><li>・話を聞いていても、大事なことを取りこぼしたり忘れたりしてしまう。</li><li>・漢字やカタカナについて、定着が乏しい。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・日記を書くなど、文章を書く時間を積極的にとり、全体指導と個別指導をおりませながら、指導を継続していく。</li><li>・メモをとる学習をふまえ、大事なことはメモをとって聞くことを繰り返し指導する。</li><li>・既習の漢字を振り返ったり、漢字やカタカナを使って単語や文章を書く時間を多く取り入れたりする。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・国語科で自分の考えを書くことだけでなく、行事や生活科等、教科横断的に気付いたことや考えを書く経験を積み重ねさせる。</li><li>・NIEタイムなどを活用し、様々な形態の文章にふれさせる。</li></ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"><li>・読む力や聞く力が不足している児童が多い。特に、初見の文章や初聞の話について、話題や内容を理解しつつ、読んだり聞いたりすることが苦手である。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・文章を読んだり、話を聞いたりした際、自分の言葉で説明し直したり、あらすじや構成を表にまとめたりさせる。</li><li>・言葉を表現させる際には、「目的」「相手」「場」を意識させ、児童が主体的に活動できるようにする。また文章や話の構成をよく考えさせ、筋道立てて書いたり話したりできるよう指導する。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・全ての学習活動を通して、言語を正しく扱うための指導を行う。</li><li>・言語感覚を磨けるよう、複数の表現を比較・検討させる機会を積極的に設ける。</li></ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"><li>・自分の考えを文章にまとめて書くという学習機会が少ない。</li><li>・正答がない問いに対し、自分の考えをもつという学習機会が少ない。</li><li>・漢字の定着は個人差はあるものの、全体的に苦手意識を感じている。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・自分の考えを、口頭のみならず文章化して表現する機会を増やす。</li><li>・問いを工夫し、自分の考えをもつ学習活動を実施する。</li><li>・既習の漢字を使ってオリジナル問題を作らせたり、短文を書く機会を増やす。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・新聞作りやパンフレット作りなど、多様な表現方法を使い、文章で自らの感想や考えを表現する機会を増やす。</li><li>・グループ学習やまとめたことの発表などの他者との交流を通して、自分の考えを再構築する機会をもたせる。</li><li>・新聞を読むことや読書を通して、漢字に触れる機会を増やす。</li></ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"><li>・根拠をもとに自分の考えを伝える学習機会が少ない。</li><li>・物語や説明文を丁寧に読み、人物の心情や、情景描写、書かれている言葉や文章について考え、その内容を書いて表す機会が少ない。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・説明文の単元では、「要点を整理し、全員が友達に説明する」活動を設定する。</li><li>・読解後に「筆者の主張に対して自分の考えを書く」「人物の言動から思い考えたことを書く」などの文章を書く課題を学習の過程で繰り返し実施する。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・他教科でも「資料をもとに説明する」「調べたことをまとめて発表する」などの言語活動を計画的、継続的に指導する。</li><li>・単元のまとめやNIEにて、①読んだ内容のまとめ②気づき③自分の考えを書くなど、毎回の感想ではなく、「考えを書く」視点で書かせる、「3行作文」指導を取り入れる。</li></ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"><li>・年間を通して、自分の考えを文章で書きまとめる学習が少なく、書き表す機会が乏しい。</li><li>・物語をじっくりと読み、心情や情景描写を考えたり、自分の意見をもったりする機会が少ない。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・自分の思いや考えを書く機会を増やしていく。</li><li>・問いを工夫し、行間にある心情や情景描写を考えたり、自分の考えを表現したりする機会を増やしていく。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・読書の機会を増やし語彙力を高める。自分の考えを文章でまとめ、他者との考えをすりあわせたり認めたりする活動を取り入れる。</li><li>・新聞を活用し、内容を読み取る力や自分の意見を表現する機会を増やしていく。</li></ul>

東京都北区立なでしこ小学校			
学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	・学習に結びつく日常的な体験や経験が乏しく、学習と日常生活とを結びつける学習が不足している。 ・児童の興味・関心を高めた上で、学習問題を作る必要がある。	・見学などの校外学習の機会を設け、学習と体験とを結びつけて、理解を深めていけるようにする。 ・児童の生活に関連する部分から導入を行ったり、写真や絵などの資料を参考にしたりして意欲的に学習問題作りを行えるようにする。	・副読本・教科書を調べ終わった児童は、きたコンを使ってさらに調べ学習を進め、学びを深められるようにする。 ・教科書だけではなく、NIEでの新聞記事や日常生活の場面からも学習する機会を設定し、さらに理解を深めさせる。
4年	・体験的な学習経験が乏しく、学習と日常生活とを結び付ける学習機会が少ないので、自分の生活と結び付けた学習問題を考える。	・出前授業や社会科見学の機会を設け、学習と体験とを結び付けて、理解を深めていけるようにする。そのため授業の導入では、身近な出来事から学習内容に触れる工夫をし、学習問題が「他人事」ではなく「自分事」として考えられるようにする。	・実際の活動や働く人々と関わる体験的授業を多く設けることで、どの児童も自分たちの問題として課題をとらえ、自らの疑問や探求したいことについてさらに深めさせる。
5年	・既習事項について定着している児童としていない児童の差がある。復習するとともに、授業で習った言葉の理解を確実に行う必要がある。 ・既習事項や資料から予想を立てる力が不足している。	・既習事項や資料から予想を立てたり、読み取ったりすることで、各単元の内容を関連付けて理解できるようにする。 ・資料を活用し、調べる活動での見る視点が定着するようにする。	・導入などの時事問題やニュース、児童の今までの体験と結びつけ、学習内容に興味・関心をもち意欲的に授業に参加できるようにする。
6年	・児童の興味・関心を高めた上で、資料を読み取り、資料からどのようなことが言えるのかを考えていく学習を繰り返し行っていく必要がある。 ・学習事項を活用して、初見の資料を読み取る指導が不足している。	・習得した知識・理解を生かして資料を読み取り表現するなど、実際の問題解決の場面で役に立つという実感をもたせる。 ・資料を調べる活動の際に、見る視点、見方の指導を丁寧に行う。	・新聞記事の紹介など、児童が身の回りの生活との関わりを感じ、興味・関心や学習意欲を高められるようにする。 ・折に触れ、資料から分かることを一問一答のクイズ形式で、資料の見方を確かめる授業を行う。

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	・具体的な操作を取り入れた指導を行ったが、文章題の正しい立式が困難な児童が多かった。 ・加法や減法の計算の定着については、生活経験の差も含め、個人差が大きいため、学級指導のみでは対応が難しい。	・半具体物の操作を繰り返しながら、文章題の内容理解を深め、自分で説明できるようにする。 ・計算カードを用いて、加法と減法の計算を確実に定着させる。	・eラーニングや補充プリントを活用しながら、既習事項の定着を図る。 ・様々な文章題に取り組み、文章を読んで図示したうえで立式する指導を行う。 ・PU講師と連携を取り、個別に支援をすすめる。
2年	・問題について、児童一人一人に考えさせる時間が不足している。 ・習熟度の幅が広く、待つ時間が長かったり、問題を解く時間が足りなかったりする児童が多い。 ・新しい学習事項を定着させるだけでなく、既に学習し終わった内容について、振り返って技能を高める時間が不足している。	・習熟度別の学習を取り入れる。 ・適応問題は児童の理解度によって選択できるようにし、解き方を確実に身に付けられるようにする。 ・宿題や朝学習で、既習事項に取り組む時間を定期的にする。	・様々な文章題に取り組み、文章を読んで図示等をしたうえで立式する指導を行う。 ・自分の解決方法を皆の前で発表し、考えを交流する機会を作る。
3年	・言語理解に課題が見られる児童も複数名おり、問題の理解について丁寧に確認する必要がある。 ・授業時間内で適用問題に取り組む時間が十分でなく、児童の理解の定着が図れない。 ・文章題の読み取りや立式の指導が不十分である。	・図示や具体物の活用を取り入れながら、児童の理解を助ける。 ・適用問題については習熟度に合わせて、問題量や難易度を調整して取り組む。 ・図や言葉を活用して、視覚的に立式の根拠や計算の仕方を理解させる。	・単元の指導を計画的に行い、授業時間内にベーシックドリル等も活用した総復習の時間を取れるようにする。 ・ICT等の思考ツールを活用し、学習問題の自力解決や考えの交流を行わせる。
4年	・個々の児童によって、課題にばらつきがあるため、個々の課題を明確に把握した上での指導が必要である。 ・基礎の習熟を確かなものにするために、前時の振り返りを行う。	・課題に対する、自身の考えを表現させるための時間を十分に確保する。また、式と答え、図や言葉を用いた表現の仕方の事例を示したり、自身の考えを説明させる機会を増やす。 ・毎時間の授業の冒頭に、基礎的な練習問題に取り組む時間を確保し、定着度を確認する。	・自力解決→複数人交流→全体交流といった流れをつくり、思考したことを伝える機会を増やし、考えを広げたり、深めたりできるようにする。 ・単元終了時に、ドリルやプリントを活用し、既習事項の復習問題に取り組ませる。
5年	・計算の手順や答えに重点を置いた指導が中心となることが多く、式の意味や考え方を言語化する機会が不足している。 ・問題場面を図や言葉で整理し、筋道を立てて考える指導がより必要である。	・式や考え方をノートに書かせ、ペア、グループ、全体で説明・共有して確認する活動を日常的に取り入れる。思考を言葉にする経験を多くの児童に積ませる。 ・問題文を図や表、時にはイラストなどに表す活動を重視し、数量関係を可視化させる。複数の考え方に触れる場を設け、理解を深める。	・基礎内容の補充として、計算練習とともに「なぜその式になるのか」を書かせるミニ課題を継続的に実施する。 ・複数の解法を比べ、それらのよさを話し合う活動等、自分の考えを図や言葉で説明する課題を、教科を横断して実施する。
6年	・基礎的な計算力、それを活用して問題解決する力など、個々に抱える課題にばらつきがあるため、個別の課題をより明確に把握した上での習熟度別指導が必要である。	・考えを説明する際に、式と答えだけでなく、図や言葉を活用して、視覚的に立式の根拠や計算の仕方を説明させる。 ・授業末の「まとめ」をしっかりと行い、本時のねらいを児童が理解しているかを確認する。	・単元終了時などに計算ドリルや練習プリント等を活用し、既習事項を確認する問題に取り組ませる。 ・ベーシックドリルに定期的に取り組ませ、補充プリントを与え、前学年の基礎基本の確実な定着を図る。

東京都北区立なでしこ小学校			
学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	・生活科と理科との相違点について確認させた上で、観察・実験に臨ませる。児童に科学的な見方の下地をつくるために体験活動を多くする。 ・科学的な思考の基礎を定着させるため、問題解決型の学習に慣れさせる必要がある。	・問題解決型の学習における各段階での見方や考え方、記述の仕方について例を示す。また、事象を測ったり、順番を付けたりして具体的に表せるよう指導していく。 ・生活経験を基に問題を見い出させたり、予想させたりするなど、生活科での学習経験を活かすようにさせる。	・問題解決型の学習を丁寧に行う。理由や根拠を明らかにして予想させたり、実験・観察の方法を複数挙げさせたりする。 ・実感の伴う思考をさせられるよう、体験的な学習を行う。五感で感じたことを基に見通しをもって観察や実験を行えるようにする。
4年	・実験や観察の時間の確保。条件によっては、実験のできない項目もある。例えば、校庭にしみこむ雨水は、校庭が土ではないので体験できない。教科書の事例を生かして実験だけでなくVTRや写真などを効果的に使用して児童に実感をもたせた学習を行うことが必要。	・モデル実験などを取り入れ、実験環境を整えたり、問題から結論にいたるまでの問題解決型の学習方法を軽重を付けながら効果的に行ったりしていく。さらに、実験を行う科学的な経験を豊かにするとともに、実験結果を根拠にして考察行うなど文章表現で必要な用語についても使わせていく。	・時数の確保ができれば理科的な問題を解くという練習を行いたいが、現在は、実験を丁寧に行い、結果から考察を自分で行う自力解決を重点として学習させる。
5年	・課題を捉え、それについての予想や考察を書くことに課題がある。生活経験から、考察するために、様々な体験に触れさせることが必要である。 ・気候や環境により、実験や観察が難しい単元がある。教科書の事例を生かして実験だけでなくVTRや写真などを視覚的な効果のある学習を行うことが必要である。	・既習事項を再確認し、生活経験から根拠をはっきりさせて予想を立てさせる。根拠を示すための理科的用語に慣れさせる。 ・可能な範囲で体験的な学習ができるよう計画的に指導していく。	・学習の流れが視覚的に分かるような板書、掲示を活用した指導を取り入れ、思考力を高める。 ・新聞や雑誌等を活用し、理科の学習に関連する事柄を意図的に選び、学校生活の中で触れる機会を多くする。 ・単元後、実験器具の操作技能テストやデジタル教材を活用した既習事項の確認を行う。
6年	・実験等が終われば「分かったつもり」になってしまい、知識・技能の定着させるための復習確認が不足している。 ・実験用具の使い方、名称などの正しい方法への指導が繰り返し必要である。	・事象のつながりや条件制御の意味など、理解しやすいよう板書を工夫する。それを参考に図式化してまとめさせたり、分かったことをペアやグループで確認し合う時間を作る。 ・授業で使ったキーワードをつなげ視覚的にも思考の流れが分かる掲示にする。	・時間があれば、朝学習等を活用し、既習事項の定着のためのプリント問題やeライブラリなどを活用し復習をさせる。 ・理科支援員と連携し、顕微鏡などの実験器具を操作する技能テストを定期的に行う。 ・NIEの活動で、新聞やニュースの理科的内容を取り上げ、学習とつなげていく。